

2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	建築・空間ストック活用小委員会	主 査 名：門脇 耕三 就任年月：2020 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (設計計画・構法計画運営委員会)	委員長名：小野田 泰明 主 査 名：岸本 達也
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2022 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会では、建設時の発想や最適化だけで建物、構法を捉えるのではなく、建物の利用やニーズの変化といった時間軸を踏まえて構法を捉えるとともに、建物の再生方法を研究していく。さらに、建物を取りまく住環境をどのように向上していくか、国際的に確立されたオープンビルディングの計画手法を参考に研究を展開していく。具体的には、以下の課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期利用が可能な建物の計画／設計／施工技術の研究 ・マスハウジング期に建設された建物、及び、団地のストック活用手法と周辺エリアの住環境の再生手法の研究 ・ソーシャルハウジングの概念の再生に関する研究 ・住宅におけるカスタマイゼーション手法の体系化（新築、改修とも） <p>あわせて、CIB W104（Open Building Implementation）の日本窓口として、オープンビルディングに関する研究・実績・教育の普及活動にも取り組む。</p>	
委員構成 (委員名（所属）)	委員公募の有無：有	
	主査：門脇 耕三（明治大学） 幹事：土井 脩史（京都橘大学） 委員：納村 信之（名古屋商科大学）、田島 則行（千葉工業大学）、南 一誠（芝浦工業大学）安達 好和（(株)アルク）、忍 裕司（(株)竹中工務店）、村上 心（椋山女学園大学）、石山 央樹（大阪市立大学）、藤原寛典（積水ハウス（株））、入江 徹（琉球大学）鈴木 あるの（京都大学）	
設置 WG (WG 名：目的)		
2021 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s13/

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. オンラインによる小委員会を2回開催し、委員及びゲストスピーカーによる研究報告と意見交換を行い、建築・空間ストック活用に関する知見を広げることができた。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 2021年4月22日：連勇太朗先生（明治大学）をゲストスピーカーとして招いて木賃アパートの活用についての報告と意見交換を行った。 ➤ 2021年11月1日：に入江徹委員（琉球大学）より沖縄県の木造住宅に関する現状報告と意見交換を行った。 2. オンライン開催としたことで、委員外の研究者・学生に参加してもらうことができた。また、動画で当日参加できなかった委員にも共有することができたため、今まで以上に活発な議論を行うことができた。
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. コロナ禍により、ストック活用事例の見学会の実施ができていないので、見学会などの実施可能性を模索する。 2. 委員会活動活性化のために、本小委員会のテーマに関心のある新しい委員を発掘する。